

まんすりー 全旅連情報

2011.8
Vol.198

発行日●平成23年8月1日(毎月1回発行) 定価150円



青森ねぶた祭

今月の主な内容

- 平成23年度全旅連シルバースター部会総代会開催
- 第2回全旅連正副会長会議開催

| | | |
|-------------|-------------------------------|----|
| NEWS | 第2回全旅連正副会長会議開催 | 1 |
| NEWS | 平成23年度全旅連シルバースター部会総代会開催 | 2 |
| | 第48回全旅連シルバースター登録審査委員会／ | 6 |
| | 放射能を正しく理解する特別講演会開催(佐賀県)／ | |
| | フード・アクション・ニッポンアワード2011 | |
| | 第14回「人に優しい地域の宿づくり賞」受賞者紹介 | 7 |
| | 「元気になろう観光日本!がんばれ東日本!」缶バッジ／ | 8 |
| | お知らせ ～定住外国人の方が宿泊される際の対応について～ | |
| | 全旅連会議開催／経営ワンポイントアドバイス／ | 9 |
| | 東北地方太平洋沖地震義援金 | |
| | 全旅連青年部広報室 | 10 |
| | 全旅連女性経営者の会 平成23年度第1回定例会・勉強会開催 | 11 |
| | 都道府県組合等の情報 | 12 |
| | 第89回全旅連全国大会に関するアンケート | 14 |
| | 全旅連協定商社紹介 | 15 |
| | 全旅連協定商社会 名簿 | 16 |

8月10日は
やど
810の日



「宿ネット」イメージキャラクターの「ココよちゃん」です。
宿をイメージさせる姿に、頭の煙突からは宿の空室状
況を表す「○・△・×」の煙を出しています。

原稿・情報をお寄せください。

ユニークな経営、地域の活動などを行っている組合や
組合員の情報をお寄せください。

自薦・他薦を問いません。

その他、ご意見や提言などもお待ちしております。

投稿方法

●E-mail ●郵送 ●FAXにて(連絡先を明記してください。)

送り先

●E-mail: ajra@alpha.ocn.ne.jp

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-5 全旅連事務局

Tel.03-3263-4428 FAX.03-3263-9789

まんすりー全旅連情報

発行日:平成23年8月1日(毎月1回発行)
定 価:150円
発行人:清澤正人
印 刷:山陽印刷株式会社

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-5 全国旅館会館4F
TEL 03-3263-4428/FAX 03-3263-9789
「宿ネット」 <http://www.yadonet.ne.jp/>

第2回全旅連正副会長会議開催

全旅連は7月7日、宮城県仙台市のホリデイイン仙台において平成23年度第2回正副会長会議を開催した。



冒頭、佐藤会長より、「今年度は、NHK受信料問題、固定資産税の軽減、原発による風評被害に対する補償問題、消費税の外税化（税額表示の明確化）の4点に特に力を入れて取り組みたい」と挨拶があった。

会議では、東北地方太平洋沖地震対策本部の今後の活動について確認、福島原発事故による風評被害を含めた賠償問題への取り組みを進めることで合意した。また、義援金は当面の間、募金活動を継続するとした。なお、7月1日現在の義援金総額は4,100万円で、そのうち、3,750万円が被災県に贈られている。

続いて、平成23年度新体制での委員会委員を承認、3つの委員会の下に、それぞれ2つの小委員会を設けることとなった。事業委員会の野澤委員長からは、「国の原子力損害賠償紛争審査会専門委員として、国内旅行に対し、福島原発事故がどれだけ影響をしているか実態調査を行った。これらの資料をもとに今後の賠償額等が決定する。インバウンドも含め、補償問題について積極的に取り組んでいきたい。」と挨拶、「水質汚濁防止法の問題についても、日本温泉協会と近々に会合を持ち、今後の方策を検討したい。」とした。工藤政策委員長からは、「NHK受信料については、あくまでBBC方式を要求したい。」と方針が述べられた。

また、平成24年度税制改正要望について、原案を承認。要望事項は以下のとおり。

●平成24年度税制改正要望事項(案)●

1. 旅館・ホテル業の建物に係る固定資産評価の見直しについては、早急に実施されたい。
2. 消費税の値上げについては、長期間デフレが進行しているなかで、最大の課題である景気が浮揚するまでの間、現行税率の据え置きを要望するとともに、消費税体系を見直す際には、現行の総額表示ではなく、外税方式にされたい。
3. 国内旅行費用について所得控除を講じられたい。
4. 入湯税は廃止されたい。廃止までの間は、その用途を「観光振興」と「鉱泉の保護」に限定されたい。

被災地視察（宮城県山元町、亶理町）

正副会長会議の開催された7日午前、正副会長一行は、被災地を視察。仙台空港の南、山元町と亶理町を廻った。仙台市内から比較的近いことから、瓦礫の撤去は進んでいたが、家々は流され、土台だけが残り、原っぱと化していた。そこに瓦礫が種類ごと（木材、鉄骨、ちぎれた車等々）に分類され、数メートルの高さに積まれていた。復興にはまだ時間がかかりそうだ。



積み上げられた瓦礫の山



土台だけ残された家々の跡



津波に耐え、唯残された耐震構造の町営温泉施設「鳥の海」。



平成23年度全旅連シルバースター一部会総代会開催

全旅連シルバースター部会（野澤幸司部会長）は、6月29日、全国47都道府県の地区委員らの出席のもと、東京・千代田区の都道府県会館で平成23年度総代会を開き、任期満了に伴う役員改選では新部会長に多田計介副部会長を選任、また、研修会では野澤前部会長による「4年間のシルバースター部会事業をふりかえって」、株式会社コジマの協力による「節電対策のご提案」と題した講演を行った。



あいさつする多田新部会長

冒頭、佐藤会長は「大震災を受けて全旅連の活動も大きく変わったが、旅館はいざというときには大変な役割を果たすことをあらためて再認識した。全旅連は現在約170万人の収容能力があり、10万人から20万人の被害者を受け入れる力を持っている。今後もこうした緊急時には、国民の生命と安全を守るために国と一緒に活動していく考えであり、みなさんの協力をお願いしたい」と述べたあと、高齢社会について触れ、「これからの時代にあっては高齢者の位置付けをしっかりと認識し、旅行等においても新しい企画の創出に努めてほしい。元気に旅行できるような世の中にしていくことは日本の将来にとってとても大事なことである」と述べ、激励の言葉を贈った。

また、来賓の山内満正・厚生労働省健康局生活衛生課課長補佐は「今は65歳以上の高齢者が4人に1人と言う状況となっており、日本におけるサービス産業は高齢者に対するサービス抜きでは考えることができない時代となっている。その意味で、シルバースター制



度を受け入れてみられているみなさんに対しては敬意を示すと同時に大きな期待も持っている。厚労省としても様々な政策をもって支援していく考えであり、これからも高齢者にとって利用しやすい宿づくり而努力してほしい」と述べた。

議事に先立って野澤部会長は、過日行われた全旅連全国大会について触れ、

「震災の影響を受け、全国大会の運営企画は全て練り直すことになったが、部会からも様々な提案を行い、観光が元気になることが日本を元気にするということが、『観光』を全面に打ち出した大会にすることができ



佐藤全旅連会長



山内厚生労働省課長補佐



中村新副部会長



桜井新経営研究委員長



花束を受け取る野澤部会長

た。シルバースター部会はこのようにこれからも様々なことにアプローチする部会でありたい」と述べた。

平成22年度シルバースター部会事業報告では、各種の販売ツールの作成配布事業、募集事業、集客事業、経営研究委員会が推進する事業について報告。このあと、任期満了に伴う役員改選では、金道太朗地区委員（北海道）が仮議長を務めて進められ、新部長には、副部長として2期4年野澤体制を支えてきた多田計介氏（石川県「ゆけむりの宿美湾荘」社長）を選任した。また、副部長に中村実彦常任委員（長野県）、経営研究委員長に桜井唱弘地区委員（新潟県）がそれぞれ就任した。

多田新部長は「会員の増強に努めることが第一の活動だが、今後とも、さらにシルバースター部会という組織が全国に認められ、その存在が確固たるものになるよう努力していきたい」と抱負を語った。

平成23年度事業計画は、前年度と同じように①部会員（事業所）特典事業②募集事業③集客事業などの各事業を推進していくが、常に大きな取組みとなっている特典事業の「販売ツールの作成・配布」では、引き続き、“家族の絆”（長寿に対する敬愛）をテーマとした旅館ホテルで行う「家族による記念日祝い（還暦以降）」は進めていく。本年度はさらに、第4弾として新たな販売ツールを作成していくこととした。

また、募集事業でのシルバースターの登録拡大は、本年度も重要な取組みとしての位置づけとなっているが、7月22日に開催する第48回登録審査委員会に間に合うよう、各都道府県組合からの登録申請の積極的な推進を強く要望した。なお、6月29日現在の登録軒数は893軒で、新規申請施設数は7軒となっている。

このほか、安心安全管理検定受検数（6月20日現在で受検者数1182人の中でシルバースター受検者数は638人で、また、全体の合格者総数534人の中では305人となっている）、新型インフル検定受検数（受検者総数175人）、調理師管理検定受検数などについての報告があった。

また、一昨年の6月に「楽天トラベル」内に構築した、すべての人が安心安全に宿泊できる施設とプランを集約し、新コンテンツとして仕上げた「全旅連認定『人に優しい宿』」ページについて、同社の担当者が報告した。

楽天トラベルでは50歳代以上の利用数が増加傾向にあることから、今回は同世代の旅行需要の強化や、車椅子利用などによって従来まで計画を立てづらかつ



説明する楽天トラベル株式会社

た人、乳幼児など小さな子どもを持つ家族などの国内旅行の需要喚起を目的に、入浴や食事、トイレなどに配慮した設備やサービスのある設備を簡単に検索・予約できる機能を装備し、また、オープニング企画として「還暦を祝うプラン」や「バリアフリーのプラン」、「乳幼児がいても安心して宿泊できるプラン」「3世代旅行プラン」などの宿泊プランを多数用意した。楽天トラベルからは次のような報告があった。

◇宿泊流通は順調だ。震災影響を含めても、昨年比プラス13%で成長軌道にのっている。2011年1～5月のシルバースターだけの宿泊流通の昨年比をみると3月は14億円だったが、5月は17.6億円となっている。グループから個人旅行へ、リアルからネットへのシフトが加速しており、今後さらに期待される。プラン名キーワードは「赤ちゃん」がぐんぐん伸び、半数を占めるまでになった。また「3世代」プランも急伸しており、家族旅行のネット予約シフトが顕著になっている。みなさんには今後もキーワードを含むプラン造成に協力してもらいたい、が、「赤ちゃん」連れには「お部屋食」で安心プランが、「3世代」旅行には「広い部屋」で「ワイワイ同室」がバツグンの相性となっている。

シルバースター部会総代会における研修会では2つの講演会が行われた。前部会長の野澤幸司氏（新潟県組合理事長、「ホテル小柳」社長）による「4年間のシルバースター部会事業をふりかえって」と題しての講演は、前に踏み出す「アクション力」、現状



講演する野澤前部長

を分析した上で解決のプロセスを進むという「考える力」などを通して、今、われわれに最も求められている、物事に進んで取り組むという「主体性」について考えさせるものとなった。

野澤氏は、旅館業界に入る以前の、自分の仕事に対する取組みは極めて行動的であったが、それは昭和55年、業界に入ってから止むことはなかったと述べ、イベントでのマスコミ露出戦術もその一つであったとして、次のように語った。

◇自分の旅館で企画した「古都京都を味わう会」というイベントでは、いかに集客に結びつけるかが大きな課題だったが、そこで打った手はパブリシティの獲得を目指すことだった。そこで、ニュースの露出や話題性を高めることに努めた。イベントにきてもらう地方（じかた）や舞子さん（10人）には、老人ホームを慰問させた。これによりマスコミは動き、「この舞子さんたちは、実は湯田上温泉の某ホテルのイベントに招かれたもの」と言わしめた。自分のイベントでありながら、しっかりと宣伝してもらうことができた。また、今は、あじさい祭りを企画して売り出しているが、これもまた、様々なアイデアを盛ったものにし、マスコミなどに対して積極的に情報公開するなどして、報道されるよう働きかけた。これでどちらのイベントも想像以上の集客に努めることができた。

野澤氏はまた、新潟県組合においては、旅館三団体の合併（平成15年に実現）、また、16年の大地震で行った復旧・復興のための数々施策、さらには、中越沖地震での組合における復興基金の捻出工面などで、いかに「働きかけ力」を駆使してよい結果に導いたかについても語った。野澤氏は「失敗を恐れず、自らやるべきことを見つけた上で、自ら一步前に踏み出す行動を求めて取り組んだ」と述べているが、これらは、困難を前にひるまない同氏の行動力そのものを示すエピソードであった。



ードであった。

野澤氏がシルバースター部会長として、また、全旅連厚生委員長として務めた4年間での活動もこうした、目的を設定し確実に行動に移すという行動力に立脚したものであった。同氏が語った主な取組みは次の3点であるが、いずれも、シルバースター部会にとっては画期的であり、有意義なものであった。

①食品衛生、ノロウイルス対策、施設衛生などの安心安全管理、食中毒への対応、新型インフルエンザの予防と対策、シルバースター部会活動報告としてまとめた集客テクニック集など4冊にわたるマニュアルの作成と3つの検定サイトの構築、そして、「旅館・ホテルにおける高齢者向け賃貸住宅等研究報告書」の作成。

②シルバースター制度の一層の認知拡大と会員へのサービスの充実を図った、「家族の記念日を旅館・ホテルで過ごすキャンペーンの展開。

③楽天トラベルと連携して全国に発信（2009年6月から）し、現在顕著な実績を見せている「全旅連認定『人に優しい宿』」の企画。

野澤氏は、講演では最後に「シルバースター部会は全旅連の牽引役として、常に新しいチャレンジをしてきたが、これからは常に前向きであってほしい」と結んだ。



野澤氏が中心となって作成した4冊のマニュアル

続いて行われた講演会は「節電対策のご提案（株式会社コジマ協力）」がテーマ。ダイキン工業株式会社空調営業本部の板田武士節電アドバイザーが震災による電力逼迫の今夏を前に、旅館ホテルにおける節電対策について次のように述べた。

◇15%の電力削減目標では、大口需要家（契約電力500kW以上）は電力の使用制限があり義務化とされている。小口需要家（500kW未満）は「個別行動計画」の策定を促すということになっている。家庭・個人の場合は国民運動としての努力目標ということではメディアなどを通じた節電意識の徹底を図っている。省エネとは使用エネルギー全体を減らすことであり、一方、節電とは電気の使用量（消費量）を節約し、電気代の低減及び電力のピークカットを行うことを言う。

◇大口需要家は、操業・営業時間の調整・シフトや、休業日・夏季休業の分散化等の取組を関連企業等とも協力しつつ進める。期間（東京電力）は23年7月～9月22日（平日）の9時から20時まで（東北電力は7月～9月9日まで）。小口需要家は、照明・空調器等の節電、営業時間の短縮、夏季休業の設定・延長・分散化等の具体的取組を含む自主的計画について、自主的に、事業所のわかりやすい場所への掲示や関連サイトへの掲載等により、公表する。

◇ホテル・旅館の電力消費の特徴は、1日の電気の使われ方（夏期のピーク日）にある。平均的なホテル・旅館においては、23時以降の深夜～朝6時頃の夜間以外は高い電力消費が続くことと、夜間の消費電力は昼間に比べ70%程度になり、昼夜間格差は小さいということ。電力消費の内訳をみると（ピーク時：14時前後）、空調が約26%、照明が約31%を占めている。これらを合わせると電力消費の約57%を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的である。

◇具体的には、①客室以外のエリアの照明を半分程度間引きする②使用していないエリア（会議室、宴会場等）は空調を停止する③ロビー、廊下、事務室の室内温度を28℃とする（または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる）④さらに節電効果が大きいアクションに取組む。例えば、客室外気給気／浴室排気システムの場合は、10時～17時の送風量を50%風量、または停止する。

◇従業員や宿泊客への節電の啓発も大事である。①施設全体の節電目標と具体策について、従業員全体に周知徹底し実施する②節電担当者を任命し、責



講演する板田節電アドバイザー



株式会社コジマ
あいさつ、商品説明する



商品説明する株式会社NIBM

任者と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを定期的実施する③館内での貼り紙などを通じて宿泊客へ節電を呼びかけるなどを実施してほしい。また、メンテナンスや日々の節電努力もお願いしたい。例えば、照明では、高効率蛍光灯やLED照明に交換（約40%の消費電力の削減が可能）も効果的だ。

◇今すぐ行えるこの夏の節電対策提案メニューとしては①デマンド制御によるピークカット②室外機への散水による消費電力低減③屋根・窓を遮熱することで冷房負荷軽減④機器メンテナンスによる消費電力低減⑤高効率照明への更新⑥設定温度管理の徹底などを挙げるができる。

第48回 全旅連シルバースター 登録審査委員会

7月22日(金)に全国旅館会館にて第48回シルバースター登録審査委員会(大木正治委員長)が開催され、申請施設10軒を審査し、右記の9軒が登録、1軒が仮登録。

これで全国のシルバースター登録施設は898軒。

| 都道府県 | 旅館・ホテル名 | 地域名 | 登録番号 |
|------|--------------|--------|------|
| 新潟県 | 佐取館 | 咲花温泉 | 1251 |
| 和歌山県 | 大阪屋ひいな湯 | 加太淡嶋温泉 | 1252 |
| 鹿児島県 | 屋久島グリーンホテル | 屋久島 | 1253 |
| 佐賀県 | 旅館千湯樓 | 嬉野温泉 | 1254 |
| 佐賀県 | ホテル華翠苑 | 嬉野温泉 | 1255 |
| 佐賀県 | グランド鳳陽 | 嬉野温泉 | 1256 |
| 新潟県 | 高台の宿 三景 | 鶯の浜温泉 | 1257 |
| 栃木県 | ホテルサンシャイン益子館 | 益子町 | 1258 |
| 石川県 | かなや | 湯涌温泉 | 1259 |
| 愛知県 | 福の神 吉良の庄 | 西尾市 | 仮登録 |

放射能を正しく理解する特別講演会開催

(佐賀県旅館ホテル組合主催)

7月15日、嬉野温泉和多屋別荘において、佐賀県旅館ホテル生活衛生同業組合主催による放射能を正しく理解するための講演会「講師 長崎大学放射線疫学分野(原研疫学) 高村昇教授、テーマ『長崎、チェルノブイリから福島を学ぶ』」が開催された。

高村教授は長崎大学医学部出身で、長崎市の上原爆被爆者の治療を行うとともに、1986年に原発事故のあった旧ソ連のチェルノブイリにもこれまでに40回ほど出向き、献身的な治療に当たられている。講演ではチェルノブイリでの事例をもとに、放射能についてわかりやすく説明があった。(詳細は次号で紹介)



フード・アクション・ニッポン アワード 2011

「フード・アクション・ニッポンアワード」とは、フード・アクション・ニッポンアワード2011実行委員会主催、農林水産省共催のもと、食料自給率向上に寄与する事業者・団体等の取り組みを一般から広く募集し、優れた取り組みを表彰することにより、食料自給率向上に向けた活動を広く社会に浸透させ、私たちや未来の子供たちが安心しておいしく食べていける社会の実現を目指すものです。

昨年度の「フード・アクション・ニッポン アワード

2010」には全国から2,500余件の応募がありました。開催3回目となる2011年度は、受賞・入賞の取り組み・活動の表彰のみならず、参加者の先進的な取り組みを広く紹介し、食料自給率向上につなげていくとして、たくさんの応募を募っています。

応募の詳細は下記HPをご覧ください。

URL: <http://syokuryo.jp/award/>

第14回「人に優しい地域の宿づくり賞」受賞者紹介

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会会長賞

静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合 女性部「あけぼの会」

『ふじのくにの女将が作成した「女将の地震初動マニュアル」～安全・安心なお宿をめざして～』

予想される東海地震に備えて宿泊客の安全を確保しようと、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合女性部「あけぼの会」は「女将の地震初動マニュアル」を作成した。平成21年8月に起きた静岡地震を契機に、伊豆地方の女将が22年2月に宿泊客の安全対策をめぐり、女将たちの目線で地震対策を策定しようと提案。富士常葉大環境防災学部の小村隆史准教授から指導を受けて7月に完成させた。宿泊施設に特化した防災対策で、24時間にわたる初動態勢は女性ならではのきめ細かな視点で、いつ、何を、どうすればよいかを、カラフルなイラストを用いて簡潔にまとめた。全国でも初の試みという。

マニュアルはカード版と小冊子版の2種類作成。カード版は組合に加入する施設のフロントなどに置く。11枚構成で、地震発生直後から、緊急事態終了時まで、それぞれのタイミングで行うべきことをチェックリスト方式で掲載している。リストの手順に従えば、津波の危険性の把握、顧客の安否や施設の確認などの要点を押さえ適切に行動できる。冊子版はカード版の解説書として使う。

8月24日には、女将の代表が静岡県庁を訪問して、川勝知事、岩瀬副知事らにマニュアルの完成を報告した。またマニュアルについての研修会を県内4カ所(伊豆・東部・中部・西部)で開催して内容の周知を行った。多くのマスコミにも取り上げられ、他県からのマニュアルの送付依頼を受けている。



各地区に分かれて意見を出し合うなど実践的な研修会の模様

選考委員会賞

大分県旅館ホテル生活衛生同業組合

『「みえないおもてなし」寝具を中心としたハウスダスト除去事業(全国初、加熱振動吸引除去)』

大分県旅館ホテル生活衛生同業組合では、宿泊においては、「温泉」「料理」そして「快眠」の3つの要素が必須条件であるとし、中でも宿泊の総仕上げとも言える快眠に対しては、「疲れやストレスの解消のみならずひと時の至福の癒し」と定義した。そこで取組んだのが「寝具の衛生」だった。「臭い、塵、埃の除去」こそが最も大事な衛生管理とし、組合では全国初のハウスダストの加熱振動吸引除去をもって、「みえないおもてなし」をアピールし、重要な誘客戦略の一つに加えた。

通常、寝具のケアは、丸洗い、次に天日干し、さらには掃除機かけといった手間と経費のかかる行程を経る。寝具の加熱振動吸引除去は平成22年の4月から本格的に始動し、すでに別府、湯布院を中心に35施設が採用、次第に県内に広まりつつある。

寝具を独自の加熱機で3分程度一挙に加熱し、ダニを死滅させ、特別のクリーナーで振動吸引する。次に除菌消臭液を散布して完了というスピーディな施工によるが、そのスパンは少なくとも半年に一度、できれば3カ月に一度が望ましい。

アレルギー疾患の人にも効果的というから安全、安心も得られる。そして低価格、スピーディな施工など、魅力いっぱいのハウスダストカットのエースとも言えるものだ。今、組合では、極上の温泉、極上の料理、そして極上の寝具衛生のこの3要素をもって温泉宿泊観光の新たな拡大を目指している。



約3分間の加熱と振動吸引により、寝具は驚くほど軽くなる

全旅連作成

『元気になる観光日本! がんばれ東日本!』缶バッジ



全旅連では3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震によって大きな被害を受けた東日本地域の復興と、落ち込んだ観光需要の回復を願って『元気になる観光日本! がんばれ東日本!』缶バッジを作成しました。

この缶バッジには、6月7日ホテルオークラ東京にて開催した第89回全旅連全国大会のスローガンである「元気になる観光日本! がんばれ東日本!」のメッセージが記されており、全旅連公式HP「宿ネット」のイメージキャラクターである「ココよちゃん」が描かれています。全国大会の当日には、全国から集まった多くの参加者が缶バッジを身につけ、大震災の影響を克服し、スローガンの通り元気な観光日本を

取り戻そうという決意と意思のみなざるものとなりました。

全旅連では、この缶バッジを多くの旅館・ホテルにおいてもご利用いただきたく、お申込を募っております。例えば写真のようにネームプレートとしても使用できますので全国の旅館・ホテルにおいてご活用いただきたいと考えております。

缶バッジは、1セット(24個)=3600円(税込/送料込)よりお受けしております。申込希望の場合は、巻末のお申し込み用紙に必要事項を記入のうえ、FAXにて全旅連までお申し込みください。

なお、今回の売上の一部は東北地方太平洋沖地震義援金に充てさせていただきます。



ネームプレートとしても使用できます。

お知らせ

～定住外国人の方が宿泊される際の対応について～

旅館業法施行規則の一部改正(平成17年4月1日施行)により、「日本国内に住所を有しない外国人」の方が旅館・ホテル等に宿泊される場合には、宿泊者名簿に、国籍及び旅券番号を記載することとなっています。これは国際テロ対策の一環として行なわれていることは皆様ご周知のとおりです。

定住外国人(日本国内に住所を有する外国人)の方が宿泊される際には、外国人登録証明書やパスポートの提示義務はありませんが、宿泊業者等から外国人登録証明書の提示を求められ、提示を拒否した場合に、ホテル・旅館等の利用を拒否される事案の存在が多数報告されているということで、今般、在日コリアン弁護士協会より、「外国人登録証明書の不提示を理由とする宿泊拒否ができないことについて、会員旅館業者等へ周知を図ってほしい」との申し入れがありました。

厚生労働省健康局長通知(平成17年2月9日付、健発第0209001号)においても、「宿泊者が自らの住所として国外の地名を告げた場合、営業者は、当該宿泊者の国籍及び旅券番号の申告も求めることとする。」とされています。つきましては、日本国内に住所を有する定住外国人の方が宿泊される場合の対応方については十分ご留意ください。

全旅連会議開催

【7月】

6日(水)

- 全旅連幹部・委員長会議
(於・山形県上山温泉 日本の宿古窯)
- 全旅連女性経営者の会役員会
(於・茨城県 筑波山江戸屋)

7日(木)

- 宮城県被災地視察
(於・宮城県亶理郡山元町、亶理町)
- 全旅連正副会長会議
(於・宮城県 ホリデイイン仙台)
- 全旅連青年部常任理事会
(於・茨城県 筑波山江戸屋)
- 全旅連女性経営者の会
第1回定例会・勉強会・委員会
(於・茨城県 筑波山江戸屋)

14日(木)

- Facebook緊急セミナー(全旅連青年部主催)
- 放射能を正しく理解する特別講演会開催
(佐賀県旅館ホテル組合主催)
(於・佐賀県嬉野温泉 和多屋別荘)

22日(金)

- 第48回全旅連シルバースター登録審査委員会

27日(水)

- 全旅連事業委員会(初会合)

29日(金)

- 全旅連シルバースター部会幹部会

経営ワンポイントアドバイス

「まんすりー」経営改善講座

経営コンサルタント 渡邊 清一郎

「なでしこジャパン」に思う

ワールドカップ優勝、涙が止まらない感動でした。全員が最後まで勝利をあきらめず自分たちのやるべきことを愚直に徹底的に行う姿勢、素晴らしすぎます。勝利の要因は「パスサッカーという最強兵器のコンテンツ(中身・内容)を磨き続けたこと」だと思います。パスの速さと精度を磨き的確にポジションを取り走り続けたことが奇跡的勝利へとつながりました。

彼女たちが教えてくれたことは、コンテンツを磨くことなしに成功することは不可能だということです。飲食店ならば、おいしい料理や旨い酒を提供し気持ち良いサービスを提供する。町工場ならば、精度の高い商品を安定して創る。病院ならば、質の高い医療行為をできる限り休むことなく行いアフターケアを充実する。学校ならば、誇りある教育のできる先生を養成する。旅館・ホテルならば、万全な安全管理のもと、おいしい料理や心からのもてなしを提供する。何かと話題のフェイスブックやフラッシュマーケティングなどのいろんな営業方法を駆使する前に、中身を磨くことを忘れてはなりません。

そしてなにより、良き人生をおくるために不可欠な「よき家族、良き友、良き志」が備わるように自分自身の中身を磨き続けたいと思います。

質問・相談は

watanabe@yadonet.ne.jp

または、全旅連事務局(03-3263-4428)までどうぞ。

東北地方太平洋沖地震義援金

多くの方から東北地方太平洋沖地震義援金へのご協力をいただきました。
まことにありがとうございました。

旅館団体

青森県旅館ホテル生活衛生同業組合
鳥取県旅館ホテル生活衛生同業組合
兵庫県旅館ホテル生活衛生同業組合
佐賀県旅館ホテル生活衛生同業組合

湯平温泉旅館組合
静岡市ホテル旅館協同組合

個人・企業

高橋美江
鬼山ホテル
朝野家

※青森県旅館ホテル組合、鳥取県旅館ホテル組合、静岡市ホテル旅館協同組合より義援金を5月にいただいておりましたが、前号に掲載しておりませんでした。

改めまして今号に掲載すると共に未掲載のお詫びを申し上げます。

【敬称略】 6月17日以降7月20日現在



【全旅連青年部公式ホームページがリニューアル】



23年・24年度の横山公大青年部長の体制に変わり、全旅連青年部公式ホームページ[<http://ajra.jp>]も大きくリニューアル致しました。今回のリニューアルにより従来以上に青年部員の「顔」を多く載せ、出向者の活動を身近に感じてもらえるひと気のあるホームページを目指しました。

各委員会の活動報告も随時掲載する予定でクローズドな情報は、yadomo！（招待制の公式SNS）を通じて公開していくなどしてインターネットを大いに活用して

いきたいと思います。またコンテンツの一つでもある「年間スケジュール」にはGoogleカレンダーを利用し連動させることで公式の予定を取り込めるようになりました。



また、ホームページリニューアルと同時に昨今、何かと話題のfacebookページも立ち上げました。[<http://www.facebook.com/ajrajp>] 公式ホームページの更新情報や全旅連青年部の活動などfacebookを通じて情報発信や交流を目的に活用していけるように育てていきたいと思います。

このfacebookは、「じゃらんnetのfacebook連携」により宿泊業界でも急激に注目を浴びたソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で、どう対応すればいいの？に答えるように全旅連青年部主催にて「facebook緊急セミナー」を開催しました。全旅連青年部メンバーでもあるSNSに精通した佐野康治氏（桑名のビジネスホテルビーエル代表取締役）とノブ横地氏（SEO会社ザワン）を講師にお呼びし、7月8日（金）名古屋、7月11日（月）大阪、7月14日（木）東京と緊急セミナーを開催し、facebookに関心のある多くの受講者がfacebookの活用について学びました。



最後になりますが、今後広報委員会として、全旅連青年部オフィシャルのメールマガジンを配信することになりました。メルマガでは横山部長のメッセージや、協賛業者様からのお得な情報、また業界の動きやyadomo!の活用など沢山の情報を全青年部員に届ける予定です。第1回配信は9月26日を予定。登録方法などはまた後ほど、ホームページなどでお知らせいたします。

メールマガジン、公式ホームページ、facebook等など、青年部が発信する情報を是非ご活用ください。次号はyadomo!についての記事をお届けいたします。



全旅連青年部 広報委員会 副委員長 佐藤光明

全旅連女性経営者の会 平成23年度第1回定例会・勉強会開催

全旅連女性経営者の会（J K K、石橋利栄会長）は7月7日、第1回定例会を茨城県の筑波山江戸屋で開き、勉強会では同旅館の女将でJ K Kの会員でもある吉岡鞠子さんが「東北地方太平洋沖地震の現状と対策」と題して講演を行い、江戸屋が大地震およびその後の余震による緊急時にどのように対応したかについて次のように語った。

◇先ず行ったことは、今、しなければならない事と、計画を立てて後ですることを瞬時に分けることだった。そして、イの一番に考えたことは社員のことで、解雇は避け、従業員には交代出勤（計画出社）をしてもらい、これは今でも、継続している。ただ、多忙な日と閑暇の日との差が激しいため、忙しい時はどうしても、力のある人、動ける人を優先させて出勤してもらい切り抜けている。

◇顧客に対してはダイレクトメール（DM）を出した。年4回、リピーターのみなさんに2000通のメールを出しているが、今回はキャンセルしたお客様を中心に、3月31日に発送した。これが5月の連休の、3日間だが100%の稼働率につながったと思っている。

また、売上げがゼロの日が続いたことから近い将来の計画変更を余儀なくされ、2、3カ月先までの計画変更を行った。銀行からの緊急融資を受けた後、営業に入ったが、売上と経費の変更をシビアに見直すことに努めた。「売上が半分なら経費も半分に」の考えに立ってしまうが、それを実現させるため、固定費を削ることにし、派遣社員にやめてもらい、ガードマンも日割りにしてもらったほか、新聞の部数を減らし、電気などもすべての見直しを行った。また出費を控えるなどしてなんとかその考えに近いものすることができた。

常に優先順位を冷静に決定し、そして、速やかに実行することに努めているが、私たちは、昔からの営業理念である「信頼、思いやり、和」の精神は崩さず、常にそれらを心の根底に据えて営業の日々を送っている。

また、吉岡さんは全員との懇談の中では、様々なことに答えている。「女将はどうあるべきか」に対しては「環境でそうなることもあるが、裏方に徹する人、また、個性を発揮される人など、みなさんそれぞれであってもいいと思う。私は『出すぎないこと』を自分



JKKの勉強会で講演する吉岡さん
(JKK会員、江戸屋女将)



出席者全員揃っての集合写真(筑波山江戸屋にて)

の女将像としている。「従業員とのこと、また、社員教育等で気をつけていることは？」には「トップの言うことは、伝わらなくては効果がないと思う。言葉に気をつけながら話すようにしている。この前も従業員にとどめをさすかのようにズバリ注意してしまったことがあったが、しまったと強く反省している。うまく伝わらなくては何の意味もないことを痛感し、言葉を選んで注意することになっている」。「事業継承で気をつけていることは？」には「事業継承していく中で、変えられるものは変え、変えられないものは変えずに意見を出し合いながら、継承していくことが大事だと思っている」。「どんな客層にターゲットを絞っているか？」には「幅広い客層を狙うのではなく、一部の客層に絞るということは、これからの『宿の個性化』ということでは大切なことと思うが、これはある意味では怖いことでもあり、まだまだ数は力なりの感をぬぐえずにいる。現在は、普通の規格と高品質・高規格のものを設けて対応し、一つの客層に絞っていない」と答えている。

東北地方太平洋沖地震

嬉野温泉旅館組合 宮城県気仙沼市義援見舞い

7月5日、嬉野温泉旅館組合は、東北地方太平洋沖地震で被害を受けた気仙沼市へ義援見舞いを行った。佐賀県旅館ホテル組合の小原健史理事長（嬉野温泉和多屋別荘）と嬉野温泉旅館組合山下浩事務局長が気仙沼市を訪れ、菅原茂市長へ嬉野温泉観光協会と嬉野温泉旅館組合が観光客などから募った支援金を贈呈した。また、佐賀県では、古川知事を先頭に震災支援対策「佐賀きずなプロジェクト」に取り組んでおり地域振興券「義援金付きプレミアム商品券&宿泊券」を通じて集まった義援金を活用して気仙沼市内の学校等へピアノを贈るなどの震災支援対策について報告をした。（詳しくは次頁『都道府県組合等情報』に掲載）

また、気仙沼市内の津波被害に遭った地域を視察。地震により地盤沈下した場所に水が溜まり、津波で流された家屋等の瓦礫が残されたままといった様子や、漁港周辺では、震災後に起きた大火災により焼け焦げた大型漁船がそのままになっている側で、作業員が船舶の修復作業を行っており、被災から抜けきらない非常に困難な状況下で漁業の復興が一步ずつ進められていることを目の当たりにした。

この様子については、小原理事長のブログ（和多屋別荘小原健史社長の『宿の旦那の夢ブログ』：<http://wataya.co.jp/mt/weblog/>）において発信されている。



焼け焦げた大型漁船。火災の大きさを物語っている。



支援金贈呈の様子 菅原市長(左)、小原理事長(嬉野温泉旅館組合副理事長)(右奥)、山下事務局長(右手前)



震災による、地盤沈下によって水が溜まり、沼のようになっている。



右奥に片付けた瓦礫が山となっているが、まだ多くの瓦礫がそのままになっている。

小笠原諸島（東京都）、 平泉（岩手県）が 世界遺産に登録決定！

■「平泉」文化遺産に登録決定（岩手県）

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会は6月26日、日本が再推薦した「平泉」（岩手県平泉町）を世界文化遺産に登録することを決めた。平泉は、12世紀に東北地方で栄えた奥州藤原氏ゆかりの土地。戦乱の後、初代藤原清衡が平泉を「私の住む極楽浄土」にしようと中尊寺を建てた。登録されるのは、藤原4代の遺体が眠る同寺の金色堂のほか、毛越寺、金鶏山、無量光院跡、観自在王院跡の計5資産。

岩手県は東日本大震災で大きい被害を受けただけに「平泉」は被災地復興のシンボルになりそうだ。平泉への観光に便利な列車として「平泉文化遺産号」も登場。8月21日までの土休日に運転され、仙台～平泉間を1日1往復する。「仙台と平泉がタッグを組み、地域の情報を発信していきたい」と関係者らは意気込んでいる。

■小笠原諸島は世界自然遺産に（東京都）

ユネスコの世界遺産委員会は6月24日、日本政府が推薦した小笠原諸島（東京都小笠原村）の世界自然遺産登録を決定した。大陸と一度も地続きになっておらず、独自の進化をとげた動植物が多いことなどが評価された。日本の自然遺産は白神山地（青森、秋田県）、屋久島（鹿児島県）、知床（北海道）に続き4カ所目。

小笠原諸島は都心から約1000キロ南の太平洋上にあり、東北約400キロに及ぶ大小30の亜熱帯の島々で構成される。公共の交通機関は東京から片道25時間半の船だけとなっている。登録区域は父島、母島の居住地を除く陸域6360ヘクタール、海域1580ヘクタールとなっている。カタツムリなどの陸産貝類106種の100種（94%）、樹木やシダなどの植物441種の161種（36%）、昆虫1380種の379種（27%）が他では見られない固有種だ。また、近い種を比較することで、生物が独自の進化をとげた過程がわかることから、小笠原諸島は「進化の実験場」とも呼ばれている。

佐賀きずなプロジェクト 「義援金付きプレミアム 商品券&宿泊券」

■「義援金付きプレミアム商品券&宿泊券」（佐賀県）

佐賀県では東日本大震災の被災地のみなさんが1日でも早く落ち着いた生活を取り戻せるようにと、県民、企業、市民が被災者とココロをひとつにした「佐賀きずなプロジェクト」を展開しているが、地域振興券としての「義援金付きプレミアム商品券&宿泊券」の発行もその一環となっている。これを受けて県内の旅館ホテルや料理、飲食業界では、今、経済界全般にわたって見られる停滞感の払拭に努めていくことになった。

嬉野温泉旅館組合では、嬉野温泉に割り当てられた4億4000万円の宿泊券を売り切る計画を進めている。

被災地ではピアノが使えなくなり困っている学校もあることから、宿泊券の1%に当たる義援金でピアノを贈呈したいと決めており、同委員会では「嬉野温泉の振興と気仙沼の子どもたちのためにがんばるぞ!」と気合を込めている。

発行券は、第一次の8月1日～11月30日の分は同一市町のみで流通、第二次の12月1日～2月29日の分は県内すべてで流通させる。

■島原城下をゆかたで歩いてみませんか（長崎県）

島原市内の旅館・ホテルの女性従業員たちが7月15日、「第5回島原城下ゆかたまつり」（7月16日—8月31日）を盛り上げようと浴衣姿で市内を歩き、市民や観光客に浴衣の着用を呼びかけた。

同ゆかたまつりは、夏場の集客対策として島原温泉観光協会が主催している。今年は、土・日曜日は各観光案内所のスタッフも浴衣姿で観光案内を行う。町の中心にそびえ立つ島原城。この城下町は水の都とも呼ばれるほど、町のいたるところに湧水があり、武家屋敷跡などが静かに佇んでいる。そんな情緒ある街並みでの浴衣を着ての散策はまさに絵になる風景だ。

飲食店の割引券がもらえたりと、嬉しい特典もいっぱい。このまつりは、期間も1カ月半と長く、島原で開催される他のイベントと合わせて泊りがけで楽しむお客も多い。

»»»» ご協力ありがとうございました!! ««««

第89回全旅連全国大会に関するアンケート

6月7日に開催した第89回全旅連全国大会についてアンケートを行いました。急なアンケートにも関わらずたくさんのご回答をいただきありがとうございました。ご回答の一部を掲載いたします。

今後の全国大会においてよりよい運営が行えるよう参考にさせていただきます。

1. 記念講演について

- ・震災後の対応や普段日常的に計画しなければいけない話があり、ためになった。
- ・少子高齢化、日本国人口の激減、今後の観光に影響を与える人口比率に合った旅館経営について説明があり、参考になった。
- ・全国大会に記念講演を取り入れるのは、良い事だと思う。

2. 式典について

- ・出来るだけスマートに。ただし、表彰等はしっかりと！全体の時間を短く。
- ・会場に奥行きが無く横に広がりすぎて場所によっては、非常にわかりづらかったと思う。
- ・長嶋読売巨人軍終身名誉監督の登場には勇気をいただいた。

3. 分科会について

- ・旅館業界が現在抱える問題をテーマとした分科会で良かったと思う。全旅連全国大会参加が今までになかった勉強のできる機会になった。
- ・今後も分科会は、現実問題ないしは実例的な問題について取り上げるべきと思う。

4. 展示会／元気ひろばについて

- ・展示会は、もう少しゆったりと相談等できる状況があればよいと思う。
- ・常に新しい情報がほしいので、ブースは必要。
- ・元気ひろばは今までになかった企画。皆楽しんでいるようだった。

5. 懇親会について

- ・懇親会のバイキング・屋台・料理内容は良いと思うが、個々のテーブルが狭かった。
- ・立食であれば、時間を短く、もっと軽く。
- ・最後のシュプレヒコールが良かった。

6. その他・ご意見・ご感想

- ・今後とも元気の出る大会であってほしい。
- ・来年もまた、あらゆる方面で勉強させてもらいたい。
- ・荷物等、遠方からの参加者に配慮が欲しい。